知床ネイチャーキャンパス2024

自然にかかわる WORK & PEOPLE

オンライン講義：2024年8月25日（日）
事前レポート　：2024年8月25日（日）～9月20日（金）
現地実習・演習：2024年9月23日（月・祝）～25日（水）

実習フィールド：北海道斜里町の知床世界遺産地域と周辺地域

演習会場・宿舎：ホテル知床

講義受講生：40名
高校生6名、専門学校生1名
大学生19名、大学院生4名
社会人10名

現地実習・演習受講生：18名
高校生3名、大学生14名
大学院生1名

講師紹介（敬称略）



オンライン講義
鈴木　正嗣
岐阜大学応用生物科学部教授。専門は野生動物管理学。「動物福祉に配慮した野生動物の高効率の捕獲体制の検討と普及啓発」などのテーマに取り組んでいる。



オンライン講義・現地実習・演習
梶　光一
兵庫県森林動物研究センター所長・東京農工大学名誉教授。知床世界自然遺産地域科学委員会委員を長年務め、著書に「ワイルドライフマネジメント」（東京大学出版会）など。



オンライン講義・現地実習・演習
秋葉　圭太
公益財団法人 知床財団 事業部参事
公園事業推進プロジェクトリーダー。
自然保護区におけるツーリズムの価値向上を仕事のテーマにしている。



オンライン講義・現地実習・演習
松林　良太
公益財団法人 知床財団 事業部参事
（保護管理事業担当）。
野生動物対策の現場業務やマネジメントを担っている。



オンライン講義
遠矢　駿一郎
環境省自然環境局自然環境計画課
生物多様性主流化室 室長補佐（当時）。
企業におけるネイチャーポジティブの取組推進のための政策立案などに携わる。



現地実習・演習
中西　将尚
公益財団法人 知床財団 事業部参事
（自然再生・交流推進担当）。

現地指導　　加倉井　理佐（環境省ウトロ自然保護官事務所）　　村上　晴花（知床ゴミ拾いプロジェクト代表）
知床財団スタッフ　　※そのほか様々な地元関係者にご指導いただきました。

オンライン講義　（2024.8.25　10:00~16:30）



講義１　リスク管理の対象としての野生動物：現状と講じるべき対策、そして今こそ本当に求められる人材像

鈴木　正嗣　講師

人口縮小時代を迎え、野生動物に起因するリスクについてミスリードを招きかねない情報が世間に溢れる昨今、最前線で働く人材にはそれを見極める野生動物リテラシーが求められること、そのための系統的な教育の重要性、参考となる公共政策学の視点などをご紹介いただきました。



講義２　世界自然遺産知床の管理における研究者の役割（科学委員会について）

梶　光一　講師

世界自然遺産・知床の概要や、行政・研究者・地域が一体となった管理体制について解説いただきました。特に遺産登録当時、科学委員会エゾシカWGで議論となった知床岬での人為的介入（エゾシカ捕獲）については、経緯や考え方を詳しく紹介し、研究者の役割、行政との関係性などを示していただきました。



講義３　知床財団が担う幅広い現地業務とは

秋葉　圭太　講師

知床地域をフィールドに活動する「知床財団」の幅広い業務内容を紹介いただきました。また自然に関わる仕事＝野山に身を置くことではなく、社会に価値を提供し対価を得ることが重要なこと、選択肢は広く現場でやる意義が問われていることなど、スタッフならではのリアルなメッセージをお伝えいただきました。

オンライン講義　（2024.8.25　10:00~16:30）



講義４　ヒグマ対策の現場から
（野生動物管理の実務と実際）

松林　良太　講師

幅広い知床財団の業務の中でも、野生動物対策（ヒグマ管理とエゾシカ管理）にフォーカスしてお話しいただきました。知床半島ヒグマ管理計画の内容や実際のヒグマ出没時の対応、2023年度の市街地大量出没時の緊迫した捕獲状況などを、現場の視点から語っていただきました。



講義５　生物多様性保全にかかわる
環境省の仕事

遠矢　駿一郎　講師

環境省自然系職員（レンジャー）の仕事内容、地方環境事務所と本省の仕事の違い、ネイチャーポジティブ政策など講師が携わってきた環境行政について解説いただきました。「環境省は政府の中で唯一『地球益』を考えることができる役所」という考え方に通じる仕事の特徴についてもご紹介いただきました。



総合質疑・ディスカッション

5人の講師による講義を終え、最後に質疑応答を行いました。進路を見据えた具体的な質問が多く出て、各講師から丁寧にお答えいただきました。自然にかかわる仕事は幅広く、学生の皆さんが抱いていたイメージと違う部分もあったかと思いますが、今回の学びをそれぞれの将来に役立ててほしいと思います。

現地実習・演習１日目（2024.9.23）

現地実習・演習初日はホテル知床に集合し、オリエンテーションやアイスブレイクのあと、実際のフィールドへ。世界遺産地域内のエゾシカ管理の現場（岩尾別台地）や知床五湖、知床自然センターなどを視察しました。夕方にはチームごとに振り返りや意見の共有を行いました。

実習１　生物多様性保全とエゾシカ管理の現場

岩尾別台地



知床財団・松林良太講師の案内で、大型エゾシカ囲い柵が設置されている岩尾別台地を歩き、生物多様性保全のためのエゾシカ捕獲の取り組みについてお聞きしました。



巨大な柵ならではの捕獲の工夫や苦労を伺ったほか、ドングリを食べた後のヒグマの糞、原生林と二次林の違いなどを観察。仕事をする上で、指標となる自然環境を自分なりに設定することの大切さをお話しいただきました。

実習２　幅広い現地業務の拠点とバックヤード

知床五湖、知床自然センターなど



知床財団が担う幅広い仕事を理解するため、知床最大の観光地である知床五湖のフィールドハウスを訪問。秋葉圭太講師から、ヒグマとの共存のための利用システムやレクチャーについて説明を受けました。



その後、普段は入れない知床自然センターや鳥獣保護区管理センターの事務所やバックヤードを見学させてもらい、秋葉講師、松林講師から、リアルな仕事の現場や求められる人材像などについてお話しいただきました。

1日目夜　夜の動物ウォッチングツアー



自然にかかわる仕事の一つであるネイチャーガイドの仕事を学ぶため、野生動物観察のナイトツアーに参加しました。

「ライトセンサス」という野生動物調査の方法を応用したツアーで、自分で野生動物を発見する楽しみも味わいながら、ガイドの案内でさまざまな動物を見つけることができました。

現地実習・演習２日目（2024.9.24）

現地実習・演習２日目は、自然復元対策、ヒグマ対策の仕事の現場を歩いたほか、環境省の現地業務や民間や地域の方々が携わる活動についても学びました。夕方には初日と同じく、チームで振り返りや意見の共有を行い、夜の交流会では講師や受講生同士の交流を深めました。

実習３　自然復元対策業務の現場

岩尾別川



知床財団・中西将尚講師の案内で岩尾別川流域を歩き、サケ科魚類・サクラマス遡上のための手作り魚道や改良中の砂防ダム、河畔林を育てるための防鹿柵などを見学しました。



サクラマスが再び知床の川に戻ってくることを目指した河川環境改善の取り組みは、モニタリングなどを重ねながら試行錯誤しており、受講生は中西講師の解説を熱心に聞いてメモを取ったり、質問をしたりしていました。

現地実習・演習２日目（2024.9.24）

実習４　市街地におけるヒグマ対策の現場

斜里町ウトロ市街地

知床財団・松林良太講師とともに、さまざまなヒグマ侵入防止対策が取られている斜里町ウトロ市街地を巡りました。

中心部を流れるペレケ川沿いの遊歩道や高台にある国設知床野営場、市街地全体を囲っている電気柵の一部を見学。過去にヒグマが潜んでいた場所などを解説いただいたほか、ヒグマ対策用ゴミステーション「とれんベア」の実際の設置場所で、仕組みや頑丈さについて説明いただきました。





実習５　環境省が現地で担う仕事について

知床世界遺産センター

環境省ウトロ自然保護官事務所の加倉井理佐講師に、ある一日のレンジャーのスケジュールなど知床でのリアルな仕事内容をお話しいただきました。許認可業務など事務仕事も多い中、地域のさまざまな立場の人たちと活動する大切さを伝えていただきました。進路を考える受講生たちの関心が高く、たくさんの質問が出ていました。



実習６　協働によるヒグマ対策について

知床世界遺産センター

知床ゴミ拾いプロジェクト代表の村上晴花講師に、地域住民や観光客、企業などたくさんの人を巻き込んで行うヒグマ対策についてお話しいただきました。「できることから始めよう」という前向きなメッセージを伝えていただき、自然にかかわる活動の幅広さや可能性を感じることができました。



現地実習・演習３日目（2024.9.25）

現地実習・演習３日目は、これまでの学びを踏まえた集大成として、各チームに分かれて「自然にかかわる仕事に大切な○○力とは？」について話し合い、発表しました。

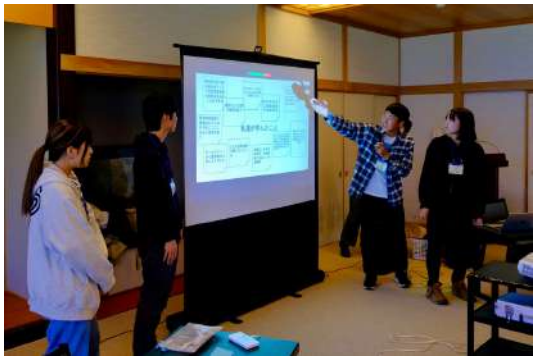
ワークショップ演習

ホテル知床

講義や現地実習で学んだこと、経験したことを振り返り、整理した上で「自然にかかわる仕事に大切な○○力とは？」という抽象的な問いについて、４チームに分かれて議論しました。
その後の発表では、具体的な学びから導き出された「行動力」「伝える力」「調節する力」「好奇心」など、多様な「力」が示されました。短い時間の中で、どのチームも説得力のあるプレゼンを完成させていました。秋葉講師、梶光一講師には議論のサポートのほか、各チームの発表に対する講評をいただきました。

発表後には簡単な修了式を行い、受講生の皆さんに修了証を手渡しました。これで８月から始まった全プログラムが終了し、解散となりました。





2日目夜　交流会

ホテル知床

2日目の夜に、講師と受講生による交流会を開催しました。全国各地の高校生から大学院生までの受講生がいたので、具体的な進路の悩みを相談し合う姿もありました。知床で得た貴重なつながりは、受講生の今後の財産になり得ることと思います。



現地実習・演習プログラム

	開始時間	時間	終了時間	内容	場所
9月23日 （月・祝） 1日目	8:00	0:30	8:30	受付	ホテル知床
	8:30	0:20	8:50	主催者やあいさつ・プログラムの趣旨説明	
	8:50	0:20	9:10	アイスブレイク	
	9:10	0:30	9:40	この後の流れ説明・実習準備	
	9:40	0:20	10:00	移動（ホテル知床～岩尾別台地）	
	10:00	2:30	12:30	実習①生物多様性保全とエゾシカ管理の現場	岩尾別台地
	12:30	0:05	12:35	移動（岩尾別台地～知床五湖）	
	12:35	0:55	13:30	昼食・休憩 （高架木道など見学自由）	知床五湖駐車場
	13:30	0:50	14:20	実習②幅広い現地業務の拠点とバックヤード part1：知床五湖	知床五湖フィールドハウス
	14:20	0:15	14:35	移動（知床五湖～知床自然センター）	
	14:35	2:00	16:35	実習②幅広い現地業務の拠点とバックヤード part2：自然センター、鳥獣保護管理センター	知床自然センター 鳥獣保護管理センター 100平方メートル運動ハウス
	16:35	0:25	17:00	移動・休憩（自然センター～ホテル知床）	
	17:00	1:00	18:00	チーム内での振り返り・意見共有	ホテル知床
	18:00	2:00	20:00	チェックイン・夕食	
	20:00	1:30	21:30	夜の動物ウォッチング	

9月24日（火） 2日目	7:00	2:00	9:00	朝食・準備・集合	ホテル知床
	9:00	0:30	9:30	移動（ホテル知床～自然センター～岩尾別川）	
	9:30	1:30	11:00	実習③自然復元対策業務の現場	岩尾別川
	11:00	0:30	11:30	移動（岩尾別川～自然センター～ウトロ道の駅）	
	11:30	1:30	13:00	昼食・休憩（ウトロ市街地）	ウトロ市街地（自由）
	13:00	1:30	14:30	実習④市街地におけるヒグマ対策の現場	ウトロ市街地
	14:30	1:00	15:30	実習⑤ 環境省が現地で担う仕事について	世界遺産センター
	15:30	1:00	16:30	実習⑥ 協働によるヒグマ対策について	
	16:30	0:30	17:00	移動・休憩（ウトロ道の駅～ホテル知床）	
	17:00	1:00	18:00	チーム内での振り返り・意見共有	ホテル知床
	18:00	1:30	19:30	夕食	
	19:30	1:30	21:00	交流会	

9月25日（水） 3日目	7:00	1:30	8:30	朝食・準備・集合	ホテル知床
	8:30	2:00	10:30	ワークショップ演習	
	10:30	0:15	10:45	休憩	
	10:45	1:00	11:45	発表会	
	11:45	0:15	12:00	修了式・写真撮影・解散	